

かわさきしがいこくじんしみんだいひょうしゃかいぎ  
川崎市外国人市民代表者会議

だい き だい ねん だい かい だい にち  
(第13期 第1年 第1回 第1日)

ぎじろく  
議事録

1 日時 2020(令和2)年6月21日(日) 午後3時30分～5時30分

2 場所 川崎市国際交流センター

3 出席者

(1) 代表者 24人

カイ イーモンタン、金 海花、グエン テイトウチャン、こだま  
ノンテイシャ、許 成龍、シン バスカ バハドール、スチエタ  
スリニヴァサン、ステイーブン ボルガ、池 垠伊、張 亮、チョ チョ  
カイン、ドウマヤス アリヤン、バテネフ アルチョム、ペレーラ ラヒル  
サンケータ、ポール ウツザル クマル、ボソ ミゲル アンヘル、まえだ  
喜与美、ムハマド アイマン アリフ、ユデク マルチン、尹 智夏、李 歡歡、  
レイバーマン ケビン、和田 恵麗奈、ンディアエ マリ カテリン

(2) 事務局

あおやま 部長、おがわ 課長、ながぬま たんとうかちょう きとう かちょう ほさき もりした たんとうかりちょう  
植 主任、日下部 職員、たかほし せんもんちようさいん  
高橋 専門調査員

4 傍聴者 1人

5 会議次第(公開)

(1) 開会

(2) 事務局説明

(3) 代表者の自己紹介

(4) 事務局の紹介

(5) 正副委員長の選出

(6) 年間日程について

(7) 事務連絡

(8) 閉会

## 【開会】

(開会し、事務局から配付資料の説明)

### 【代表者の自己紹介】

カイ委員「ミャンマー出身。私は子育て環境の話をしたいが、みなさん環境も価値観も違うので、その点もふまえていろいろと話し合っていければと思う。」

金委員「中国出身。12期の経験を生かして、川崎市民がもっとよりよい生活ができるようにみなさんといろいろと話していきたい。」

グエン委員「ベトナム出身。留学生として鳥取での生活が長く、国際交流のボランティアなどもしていたが、川崎に来てから外国の人たちとの交流が少なくなった。生活で困っていることなどを共有して、みなさんで話し合っていきたい。」

児玉委員「タイ出身。2児のママとして外国で子どもを出産すること、子育てすること、いろんな不安があるママたち、ママとして働いている女性としていろんな提案ができたらいと思っている。みなさんと住みやすいまちにできたらいと思っ応募した。」

許委員「出身は中国。12期では子育ての話をしたいと思っ応募したが、振り返ったときに代表者会議の知名度が高くないなどの課題を感じたのでまた応募した。」

シン委員「ネパール出身。外国人が感じていることについて話し合い、役に立つような案を出したい。」

ステータ委員「インド出身。子どもを出産したときに言葉の壁ですごく困った。日本に来たばかりで日本語がわからない外国人のために何か貢献できればと思う。」

ステイブン委員「オーストラリアから来た。長く川崎に住んでいるが、どうすればもっと住みやすい場所になるのか、みなさんと話し合いたい。」

池委員「韓国出身。以前、自治体で国際事業に関する仕事をしていたことがあるのだが、その中で問題提起まではできてもなかなか解決までは至らないケースがあって歯がゆさを感じていた。応募した理由の1つは、解決までのプロセスを経験してみたいというものだ。もう1つは、外国人住民からの要求はあるのだが、逆にコミュニティに貢献したいという声は少ないと思っっていて、外国人

も自分<sup>じぶん</sup>に何<sup>なに</sup>ができるのかということ<sup>こと</sup>を考えた方<sup>かんが</sup>がよいのではないか、そのため<sup>ため</sup>に何か支援<sup>しえん</sup>できないかと考えている。」

張委員<sup>ちやういゐん</sup>「中国出身<sup>ちゆうごくしゆしん</sup>で幸区<sup>さいわいく</sup>に住<sup>す</sup>んでいる。日本<sup>にほん</sup>に来てもう18年目<sup>ねんめ</sup>、川崎<sup>かわさき</sup>に住<sup>す</sup>んで2年目<sup>ねんめ</sup>、会社<sup>かいしゃ</sup>も川崎<sup>かわさき</sup>にあり、川崎<sup>かわさき</sup>が大好き<sup>だいすき</sup>で、少しでも川崎<sup>かわさき</sup>に貢献<sup>こうけん</sup>したいと思<sup>おも</sup>っている。不安<sup>ふあん</sup>とか、不満<sup>ふまん</sup>とか、不便<sup>ふべん</sup>とかそういう「不<sup>ふ</sup>」を解消<sup>かいしょう</sup>できるように取<sup>と</sup>り組<sup>く</sup>みたい。」

チョ委員<sup>ちよいゐん</sup>「ミャンマー<sup>みゃんまー</sup>から来た<sup>きた</sup>。12期<sup>き</sup>では、みんなの健康<sup>けんこう</sup>のため<sup>ため</sup>に何か<sup>なに</sup>したいなと思<sup>おも</sup>っていた。今年<sup>ことし</sup>に入<sup>はい</sup>って、コロナ<sup>コロナ</sup>で私<sup>わたし</sup>たちが持<sup>も</sup>っている知識<sup>ちしき</sup>や情報<sup>じょうほう</sup>が不足<sup>ふそく</sup>している中<sup>なか</sup>で、どうすれば<sup>ただ</sup>正<sup>ただ</sup>しく、詳<sup>くわ</sup>しい情報<sup>じょうほう</sup>を伝<sup>つた</sup>えることができるか<sup>か</sup>を話し合<sup>あ</sup>いたい。」

ドウマヤス委員<sup>どうまやすいゐん</sup>「フィリピン<sup>ふいりびん</sup>出身<sup>しゆしん</sup>。応募<sup>おうぼ</sup>した理由<sup>りゆう</sup>の1つ<sup>ひと</sup>は、国費<sup>こくひりゅうがくせい</sup>留学生<sup>にほん</sup>として日本<sup>にほん</sup>で勉強<sup>べんきやう</sup>してきたこと<sup>こと</sup>の恩返<sup>おんがえ</sup>しとして、川崎<sup>かわさき</sup>市のグローバル化<sup>ぐろーばるか</sup>に貢献<sup>こうけん</sup>したいと思<sup>おも</sup>う。もう1つ<sup>ひと</sup>は、去年<sup>きょねん</sup>、川崎<sup>かわさき</sup>市<sup>し</sup>に引<sup>ひ</sup>越<sup>こ</sup>してきたばかり<sup>ばかり</sup>のとき<sup>とき</sup>に台風<sup>たいふう</sup>19号<sup>ごう</sup>を経験<sup>けいけん</sup>して危険<sup>きけん</sup>や不安<sup>ふあん</sup>を感じ<sup>かん</sup>じた。ほか<sup>ほか</sup>の外国人<sup>がいこくじん</sup>も同<sup>おな</sup>じだったのではないかと<sup>おも</sup>い、この会議<sup>かいぎ</sup>でどのよう<sup>たいう</sup>な対<sup>たい</sup>応<sup>おう</sup>ができるのか<sup>か</sup>話し合<sup>あ</sup>いたい。」

バテネフ委員<sup>ばてねふいゐん</sup>「ロシア<sup>ろしあ</sup>出身<sup>しゆしん</sup>。この会議<sup>かいぎ</sup>が魅力<sup>みりよくてき</sup>的<sup>てき</sup>なのは、身近<sup>みじか</sup>な自分<sup>じぶん</sup>のコミュニティ<sup>こみゆにてい</sup>に貢献<sup>こうけん</sup>できるということ<sup>こと</sup>だと思<sup>おも</sup>う。個人的<sup>こじんてき</sup>にはダイバーシティ<sup>だ이버シテイ</sup>とか、人権<sup>じんけん</sup>とか労働<sup>ろうどう</sup>環境<sup>かんきやう</sup>問題<sup>もんだい</sup>に関心<sup>かんしん</sup>があるが、みなさんでテーマ<sup>てーま</sup>を出<sup>だ</sup>し合<sup>あ</sup>って議論<sup>ぎろん</sup>していきたい。」

ペレーラ委員<sup>ぺれーらいゐん</sup>「スリランカ<sup>すりらんか</sup>出身<sup>しゆしん</sup>だ。留学生<sup>りゅうがくせい</sup>として日本<sup>にほん</sup>に来て15年<sup>ねん</sup>近く<sup>ちか</sup>になる。10年<sup>ねん</sup>近く<sup>ちか</sup>横浜<sup>よこはま</sup>に住<sup>す</sup>んでいたが、結婚<sup>けつこん</sup>を機<sup>き</sup>に川崎<sup>かわさき</sup>に引<sup>ひ</sup>越<sup>こ</sup>してきた。最近<sup>さいきん</sup>子ども<sup>こども</sup>が生まれた<sup>うま</sup>れたので、子育て<sup>こそだ</sup>について話し合<sup>あ</sup>いたい。それと、日本<sup>にほん</sup>の生活<sup>せいかつ</sup>スタイル<sup>すたいる</sup>を発信<sup>はっしん</sup>したりして、日本人<sup>にほんじん</sup>と外国人<sup>がいこくじん</sup>が仲<sup>なか</sup>よくできるようなまちづくり<sup>まちづくり</sup>ができればと思<sup>おも</sup>う。」

ポール委員<sup>ぽーるいゐん</sup>「バングラデシュ<sup>ばんぐらでしゅ</sup>から来た<sup>きた</sup>。さまざま<sup>さまざま</sup>な国<sup>くに</sup>からいろい<sup>いろ</sup>んな人<sup>ひと</sup>が来ていて、それぞれの困<sup>こま</sup>ったこと<sup>こと</sup>や問題<sup>もんだい</sup>点<sup>てん</sup>について、何か<sup>なに</sup>貢献<sup>こうけん</sup>できればと思<sup>おも</sup>う。川崎<sup>かわさき</sup>市<sup>し</sup>が住<sup>す</sup>みやすいまちになるために、何か<sup>なに</sup>1つ<sup>ひと</sup>でも問題<sup>もんだい</sup>が解決<sup>かいけつ</sup>できればと思<sup>おも</sup>っている。」

ボソ委員<sup>ぼそいゐん</sup>「ボリビア<sup>ぼりびあ</sup>出身<sup>しゆしん</sup>。12期<sup>き</sup>の経験<sup>けいけん</sup>を生<sup>い</sup>かして、みんな<sup>みんな</sup>でよい提言<sup>ていげん</sup>ができるようにしたい。市民<sup>しみん</sup>として私<sup>わたし</sup>たちに何<sup>なに</sup>ができるのか、自分<sup>じぶん</sup>が困<sup>こま</sup>っていること<sup>こと</sup>だけではなく、川崎<sup>かわさき</sup>市<sup>し</sup>がやっていること<sup>こと</sup>などもよく理解<sup>りかい</sup>して、みなさん<sup>みなさん</sup>と意見<sup>いけん</sup>交<sup>こう</sup>換<sup>かん</sup>しながら<sup>ながら</sup>よいまちづくり<sup>まちづくり</sup>に貢献<sup>こうけん</sup>したい。」

前田委員「国籍は韓国だが、父が在日二世、母がフィリピン出身でフィリピンと韓国のハーフの在日三世。日本で生まれ育ったのだが、幼いころからいろいろな国の困っている人たちが家に来て、いろいろとサポートしているという環境で育った。12期では副委員長と途中から部長も務めた。みなさんの意見をまとめるという難しさや勉強不足を感じたが、よい提言に向けて話し合いができればと思う。」

ムハマド委員「マレーシア出身で日本に来て9年、川崎市は4年目になる。大学の時に留学生のクラブに参加していて、困っていることなどを話し合った経験があり、そうした経験を生かしたい。川崎に来てからも国際交流イベントなどに参加したことがあるのだが、いろいろな人に話を聞く災害時の対応や防災訓練などで課題があるように感じたので、この会議に選ばれていない人たちが困っていることも含めて問題を解決できればと思う。」

ユデク委員「ポーランド出身。もっと住みやすく、子育てがしやすくなるように貢献したい。これから外国人はもっと増えていくと思うので、この会議の役割は重要だと思う。」

尹委員「韓国出身。留学で日本に来て、今は会社に勤めていてあまり外国の方との交流がなかったので、みなさんと交流したいと思い応募した。自分も大学3年生と1年生の子どもがいるが、自分も必死で子育てをした。この国にしっかり根を張って住むためには、家族をつくる人もいるし、やっぱり子どもの教育と健康が重要だと思う。自分の経験を生かしながら、これから川崎に住む人たちのために役に立てればと思う。」

李委員「中国出身。留学生として日本に来て、小学校で支援ボランティアをした経験がある。教育や情報発信に興味があるので、みなさんとぜひディスカッションしていきたい。」

レイバーマン委員「アメリカ出身。川崎市に住んで15年、市民の1人としてこれからもまちの改善のために貢献していきたい。取り上げたいのは、災害の時の行動、情報について。」

和田委員「ロシア出身。2歳の子どもがいて、これから幼稚園とか、いろいろな人との触れ合いが増えると思うので、話し合いたいことも増えると思う。川崎市に引っ越すまで日本語学校の事務を務めていて、来たばかりの留学生とか、これから進学とか就職を考えている留学生の悩みを見てきたので、その経験が川崎市民の役に立つと嬉しい。」

ンディア委員「セネガル出身だ。応募した理由は3つある。1つ目は、川崎市に住む前に相模原市に住んでいたのだが、引っ越してきて急に税金が高くなった理由が知りたい。2つ目は、私の国はフランス語が公用語で、交換留学生で日本に来た時には日本語はまったくわからなかった。英語は理解できたが、いろいろと困ったので日本語がわからない人のサポートをしたい。3つ目は、川崎にアフリカ人のコミュニティがすごく少ない。インターナショナル・フェスティバルも開催されているが、もっと文化交流に力を入れるとよいと思う。」

### 【事務局の紹介】

(事務局青山部長から事務局の紹介)

### 【正副委員長の選出】

青山部長「正副委員長が決まるまで仮議長を務めさせていただく。まず、それぞれの役割などについて事務局から説明をお願いする。」

(事務局高橋専門調査員が資料2に基づき説明)

青山部長「何か質問はあるか。(なし)それでは、続いて選出方法について事務局から説明をお願いする。」

(事務局高橋専門調査員が資料2に基づき説明)

青山部長「何か質問はあるか。」

バテネフ委員「毎回の会議の2週間前くらいに事前の打ち合わせをするとのことだが、それはオンライン会議でもよいのか。」

事務局高橋専門調査員「コロナのこともあるので、可能性としてはオンラインでやることもあるかもしれないが、基本的には対面で打ち合わせをしたい。やむを得ない場合にはオンラインの可能性もあると思う。」

青山部長「ほかに質問はあるか。(なし)では、事務局案とは違う選出方法について意見がある人はいるか。(なし)それでは、まずは委員長の選出方法について事務局案に賛成の人は手を挙げてください。(賛成多数)次に、副委員長の選出方法について事務局案に賛成の人は手を挙げてください。(賛成多数)では、どちらも事務局案で選出していく。まずは、委員長について立候補はいるか。(挙手)では、推薦はいるか。(推薦)」

立候補 — 前田委員  
ペレーラ委員

推薦 — バテネフ委員 (→承諾)

青山部長「それでは、候補者の方からそれぞれスピーチを頂きたい。」

前田委員「12期のときに副委員長と部会長を兼任させていただいた経験をより生かしたいというのと、何よりもみなさんの会議のサポートをしていきたいと思っている。『Colors Future 川崎』とあるように、やはり川崎市は外国人も多い都市なので、グローバル化やダイバーシティという大きなものがあるかと思うが、同時に、足元にある意見をくみ取って、いい代表者会議にしていきたいと思っている。」

ペレーラ委員「初めての参加で委員長に立候補するのか、と思う方もいるかもしれないが、次のタイミングがあるかもわからないので私としてはぜひやりたい。川崎市に住んでいるすべての外国人、外国人だけではなく日本人の人たちにとっても住みやすいまちをつくっていくための議論の先頭に立っていろいろと対応できればと思う。市長報告ではしっかりとみなさんの気持ちを伝えたいと思っている。」

バテネフ委員「前期では市長への報告や副部会長なども経験させていただいたので、この経験を生かしながら、今期の会議でも貢献させていただければと思っている。この会議は非常に素晴らしいものだと思っているので、一生懸命がんばらせていただく。」

<投票>

[1回目]

前田委員 (→9票)

ペレーラ委員 (→11票)

バテネフ委員 (→3票)

無効票 (→1票)

[2回目]

前田委員 (→10票)

ペレーラ委員 (→14票)

青山部長「それでは、委員長はペレーラさんに決まった。続いて、副委員長を決めたい。立候補はいるか。(挙手) 推薦はいるか。(推薦)」

- 立候補 — 張委員  
 推薦 — カイ委員 (→ 辞退)  
           前田委員 (→ 承諾)  
           バテネフ委員 (→ 承諾)

青山部長「それでは、候補者の方からそれぞれスピーチを頂きたい。」

張委員「委員長をしっかりとサポートしていきたい。私は会社で労働組合の仕事を  
 しているので、そうした経験をいかして、副委員長としてみなさんのサポート  
 をしたい。」

前田委員「第12期に副委員長の経験はあるが、また、副委員長として責任感をもっ  
 て、前向きに素晴らしい提言をまとめていきたい。」

バテネフ委員「少しでも提言の取りまとめに貢献したいと思っている。」

< 投票 >

張委員 (→ 13 票)

前田委員 (→ 8 票)

バテネフ委員 (→ 3 票)

青山部長「それでは、副委員長は張さんに決まった。それぞれ挨拶をお願いした  
 い。」

ペレーラ委員長「委員長に選ばれてすごく光栄だ。私は初めてなので、前田さんや  
 バテネフさんにもサポートしていただけると嬉しい。みなさんに選んでもらっ  
 たので、しっかりと会議の審議を仕切っていきたい。メインはみなさんだと思  
 っているので、会議をサポートする役としてがんばっていきたい。よろしくお  
 願いします。」

張副委員長「ペレーラ委員長の仕事をしっかりとサポートしながら、みなさんがや  
 りやすいようにしていきたい。2年間よろしくお願ひします。」

青山部長「無事に委員長と副委員長が決定した。このあとの進行について、委員長、  
 副委員長と事務局で簡単な打ち合わせをするので5分間の休憩とする。」

( 休憩 )

ペレーラ委員長「それでは、会議を再開する。次第の6、年間日程についてだ。  
 事務局から説明をお願いする。」

(事務局高橋専門調査員が資料3に基づき説明)

ペレーラ委員長「何か質問はあるか。（なし）では、意見はあるか。（なし）それでは、日程（案）について賛成の人は手を挙げてください。（全員賛成）2020年度の会議日程は案のとおりに決定した。毎回の会議に出席できるように、予定を空けておいてください。次回の会議では、今後の会議に進め方について話し合いたい。議事は以上である。事務局から事務連絡はあるか。（なし）それでは、次回の会議は7月5日、日曜日、今日と同じく国際交流センターで開催する。これで、2020年度第1回第1日の川崎市外国人市民代表者会議を終わりにする。お疲れさまでした。」